

レコードのノイズと要因について

レコードのノイズは多少に関わらず気になるものです。ハンル吸引式レコードクリーナーはその悩みを出来るだけ解消するように設計されています。ただし、残念ながら一部のレコードは如何に入念に洗浄しても、パチ・プチというノイズが完全には取り切れないことがあります。以下をご覧頂き参考にして頂ければ幸いです。

レコードのノイズには下記のような要因があります：

1. 吸着した大気中の微粉塵（主にイオンや静電気の力で吸着した非磁性や磁性の粉塵）
2. 以前に塗布し残留、乾燥したレコードクリーニング液の堆積と汚れ
3. プレス時に塗布される離型剤と化学変化し硬化した残留物（特に外周 1～2 cm）
4. 表面のカビ。根の深いカビ
5. レコード面に刻まれたキズやレコード盤の材料に混入した不純物

ハンルで出来ること、出来ないこと（上記の項目について）：

1. 大部分の粉塵を取り除くことが出来ます。
2. 大部分の汚れを取り除くことが出来ます。
3. 新しいレコードや未開封のレコードではほとんどの場合、離型剤を取り除くことができます。経年したレコードはその新品時からの保管状態、製造の年代、国やレコード会社によってその離型剤の付着や化学変化の状況が異なります。
レコード盤によって離型剤が硬化付着して完全には洗浄できないものがあります。
4. 表面に付着した軽度なカビは殆んど取り除くことができますが、根の深いカビに於いては完全に取り除くことは出来ません。
5. 修復が出来ません。溶液を塗ってノイズを目立たせぬ方法もありますが、これは繊細な音楽情報を刻んだ音溝をも埋めてしまうことになりかねません。

洗浄におけるアドバイス：

一度、洗浄しても思ったほどノイズが取れない場合。

ノイズが特にひどい場合は、ローリングブラシによる洗浄に加えて、

- ① 洗浄液の散布
- ② ローリングブラシによるブラッシング（両方向を各 1 分以上）
- ③ 吸引（両方向を各 1～2 回転、湿度や洗浄液の散布量によって異なります）

この一連の工程を、時間を開けずに 2 工程以上、連続して反復洗浄する方法をお勧めします。レコード盤によっては大きく改善されることがあります。

◆ 音質と音楽性：

音質や再生帯域、音楽性を大きく損なうノイズは、主に連続したノイズ（吸着したミクロンの微粉塵によるノイズ）です。それに対して時々パチパチというノイズは確かに気になるものではありませんが、大きく音質や再生能力を損なうことは有りません。

今日までアナログ再生の限界を造っていたのは他ならぬ、汚れたレコード盤自身です。

ハンルはアナログオーディオ装置の再生限界を大きく飛躍させる一役を担います。

音楽性の高さに特にこだわる方々にお勧め致します。